

巻頭言

2月県会を顧みて

惣 津 律 士

35年度予算を審議する2月県議会は3月20日で閉会した。本会議及び委員会を通じて終始活発な論戦が展開され、就中畜産については和牛、酪農の振興、草地改良、家畜の防疫並びに保健衛生、畜産物の取引、更に養豚に亘る各般の諸案件について審議された。特に県が和牛振興の立場から食肉市場を設置しようとする予算案については、将来の畜産立地を十分に勘案して善処する事が当局に要望され、今後問題が残されているが、とも角、肉畜の近代的取引への移行の緒が開かれたことは喜びに堪えない。

新しい制度への脱皮は畜産については関係者等のものに十分な用意が乏しい関係から中々時間がかかり、「面倒くさい」事この上なしと言う状況で困ったことである。

畜産の新年度予算にはその他に新しい生産基盤の培養に関する施策が強く打出されている。貿易自由化と言う現実な姿が目前に迫っている今日、国会でも乳製品について度々質問が行われているが、大臣の一片の色よい答弁で解消されるものではない。時間はまたなしに経過して行く。生産基盤の培養、取引の近代化は即時実行に移されなくてはならない。2月号で申上げた「グリーンプラン」はその一端である。私は草地の改良はどうか進むものと思っているが、既耕地に於ける飼料専用圃の設置、水田の裏作利用が順調に

行くだらうかと案ずるものである。これは畜産物に対して政府がはっきりした価格支持を変える政策に米から180度の転換をするか否かにかかっていると見えよう。

近時特に青少年の体位向上が目だっているがこれは畜産物の消費増に依る所が大きいとも言えよう。

私達は良い牛乳、肉、卵をうんと国民に供給したい。政府はよろしく、新しい食糧生産に必要な保護政策を今こそ思い切っにかえるべきであろう。